

平成29年度 地域貢献研究助成費 実績報告書

平成30年3月30日

報告者	学科名	デザイン工学科	職名	教授	氏名	福濱 嘉宏
研究課題	観光地を良好に活性化するための空間形成に関する基礎的研究					
研究組織	氏名	所属・職	専門分野	役割分担		
	代表	福濱 嘉宏	デザイン学部教授	建築学	幹事	
	分担者	岸本 泰三	岸本泰三建築設計室	建築設計	調査・技術提案	
研究実績の概要	<p>○本研究の目的 奥津温泉固有の文化・歴史・自然等に基づく空間コンセプトを計画することである。奥津温泉を形成する要因を分析し、観光地の良好な活性化について考察することである。</p> <p>○研究の方法 1. 資料調査 岡山県立図書館、岡山県立記録資料館、鏡野町奥津歴史資料館に所蔵されている資料を調査。これらはおもに、絵葉書、古写真、パンフレットである。 つぎに、次項のオーラル・ヒストリーの調査と同時に、その調査対象が所蔵する資料の調査をおこなった。これは古い写真、私家本である</p> <p>2.オーラル・ヒストリーの調査 奥津温泉街で民宿、旅館を営む方（現役、引退とも）7名を対象に、奥津温泉の最盛期である昭和40年～50年代の出来事を中心に、自由に話してもらい、音声記録を行った。</p> <p>○調査のまとめ 音声記録を書き起こしの上整理し、オーラル・ヒストリーとして記録に残す。その内容は概ね以下のようなものである。</p> <p>ヒアリング対象者によると、建物自体の町並みの変化は少ないという。しかし、旅館の向かい側にあった土産店等は、商売上成り立たないということで店じまいしており、活気に欠けることが分かる。その土産物店はもともと昭和3年に創業した「東和楼」の本館であったが、本館が昭和7、8年に現在の位置に移動し、昭和50年代までは、東和楼が経営する土産店であったが、現在は建物のファサードをもアルミ板で覆ってしまい、町並みに与える印象を大きく変えたうえに、現在は空き店舗となっている。また、「奥津荘」と現在閉館中の「河鹿園」は、版画家・棟方志功が宿泊するなど、交際があり、版画作品のほか同氏に設計になる茶室も残されている。 写真は未整理の状態であるが、利用可能な状態にしている。</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p>○空間コンセプトについての考察 高度経済成長期や、戦後の観光ブームで活気を呈した奥津温泉ではあるが、現在は営業規模を縮小し、客単価をあげる方向にある。しかし、老舗旅館の風情は最盛期のままであり、他の建物も昔の状態に残っている物が多い。そこで、空間コンセプトとして、景観として昭和40年代の風景を蘇らせることを軸に、新たに観光のコアとなる施設があり、少人数による長期滞在型の観光地としての空間づくりが望ましい。空き家や老朽化、が目立つ通りの東側に、何らかの形で静かな環境に心を落ち着かせる観光形態を創造する。</p>
<p>成果資料目録</p>	<p>有村のぞみ：奥津温泉街における空間形成プランに関する研究（本学卒業論文 2017） 有村のぞみ：町の記憶と歴史を摺り重ねる - 棟方志功美術館 -（本学卒業制作 2017） 制作物は地域内の公共施設において展示予定である。</p>